# 単元名「 世界の諸地域 」　（第１学年　B（２）　世界の諸地域）

**■本事例のポイント**

１.単元を貫くパフォーマンス課題に、異なる主題で繰り返し取り組むことで学びの質の向上を目指した。
２.学習計画や学習のポイント（評価規準）を生徒と共有した、クラウドベースによる複線型の授業を展開した。

**■単元の目標**

世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付き等に着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

**■単元の指導計画（３２時間）**

**導入　（１）**
「世界がもし100人の村なら…」「SDGs」
**第１小単元（５）**「北アメリカ州」
**第２小単元（３）**「オセアニア州」
**第３小単元（７）**「アジア州」
①学習課題を確認し、仮説を立てる
仮説の検証方法を考える
②③仮説の検証
④中間発信会
⑤⑥仮説の再検証
⑦結論をまとめ表現する
**第４小単元（６）**「ヨーロッパ州」
**第５小単元（３）**「アフリカ州」
**第６小単元（４）**「南アメリカ州」
**振り返り（３）**
「世界地図を作ろう」

**■本時の概要**

【学習課題】
小グループで中間発信会を行い、検証している内容や方法について調整しよう。

小単元の中盤で、学習調整を促すために「協働的・対話的」な活動を意図的に仕組んでいます。

【学習活動】
①三人グループ
持ち時間一人１２分程度

②仮説、仮説の検証方法、検証した内容を発信

③発信内容についてのフィードバック、検討

④交代して②③を繰り返す

⑤個人での振り返り

学習活動の様子

## ■指導と評価の工夫

**①単元を貫くパフォーマンス課題に、異なる主題で繰り返し取り組む単元計画**

＊全ての州で活用できる課題を設定して繰り返し取り組むことで、段階的に学び方を学び、向上させていくことができる。
＊中項目での単元計画と組み合わせることで、より柔軟に系統的に学習を計画することができる。

ここに名前を

【問い】アジア州の急速な経済成長が、地域にどのような影響を生じさせているかを調査し、その良さや課題をインフルエンサーとしてマネージャーと協働しながら発信しよう！

【主題】急速な経済成長
【地球的課題】都市・居住問題

## ■学習調整をしている子供の姿

### 子供が学び方を選択・決定する場面の設定

**②デジタル学習基盤を活用したクラウドベースの学習**

＊同じものを、同時に、複数で共有することで、協働的な学習に効率的に取り組むことができる。
＊クラウド上に提示されている資料や、新たに必要になった資料の検索などに、容易にアクセスすることができる。
＊生成AI（注）を活用し、複数の形式の中から対話的な学びを選択できる。
＊教師による生徒一人ひとりの状況の見取りも効率的に行うことができる。

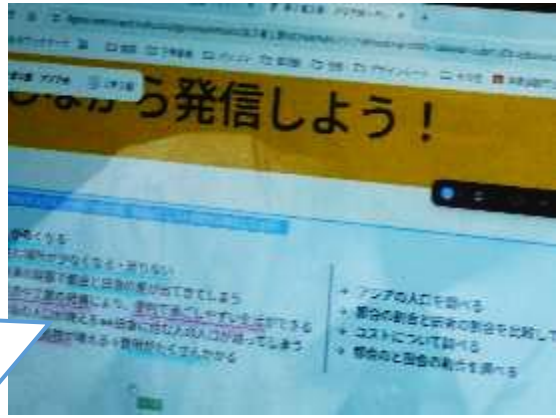
（注）本事例の中学校は、今年度「生成AIパイロット校」として、教育活動における生成AIの活用に取り組んでいる。

### 子供が学習課題を選択・決定する場面

一人で考えることが難しい生徒のために、実態に応じて教師から型を例示することも必要になります。

**③主題を踏まえて、自ら「仮説」「仮説を検証する方法」「仮説の検証」「まとめ」に取り組む**

＊自ら課題を解決するための方向性を決めて取り組むことで、学習に対する責任感をもたせることができる。



友達と話す中で分かったり気付いたりすることがあった！

**子供が自らの学習を振り返る場面の設定**

**⑤毎時間必ず振り返りの時間を確保**

＊学習した内容の振り返りよりも、学び方を中心に「できたこと・分かったこと」「できなかったこと・分からなかったこと」を振り返らせたことで、メタ認知を促すことにつなげた。

## ■指導と評価の工夫

**④学習のポイント（評価規準）や、協働のための視点を生徒と共有**

＊目指してほしい方向性や、視点（＝手立て）を明確に示すことで、見通しをもった学習や、対話を通した学習調整を促すことができる。

**【学習のポイント（💯評価規準・☁キーワード・👉ポイント）】**

**＜知識・技能＞**

**💯アジア州に暮らす人々の生活をもとに、アジア州の地域的特色を大観し理解している**
**また、その地域的特色の影響を受けて、アジア州特有の地球的課題が生じていることを理解している**

**☁「多様性（自然環境・文化・産業）」「地域ごと（東アジアなど）の特色」「都市化・経済格差・環境問題」**

👉教科書に載っている文章や資料から、問いを解決するために必要な情報を読み取ることができる（技能）
👉収集した情報を適切なツールを使用して整理できる（技能）
👉解決した問いに関する「つまり」は、知識として定着させ、いつでも取り出すができる（知識）

【フィードバック・検討の視点】
①検証している内容が、学習課題（主題・地球的課題）や仮説に対応したものとなっているか
②より良い結論を作るために、不足している視点や内容はあるか（視点の確認）
③明らかに事実と異なる内容になっていないか（事実の確認）
④因果関係などが、間違っていないか（関係性の確認）
⑤資料が、仮説の検証のためにふさわしいものか（資料の確認）
⑥インフルエンサーからの相談（〇〇な資料を探してほしい、今後の方向性など）
⑦質問、その他
**※発信、アドバイスともに「根拠」をはっきり示そう**
※検討会で出た意見は、どんどんFigjamの付箋で残しておきましょう

***❗1つの面から見る（考える）よりも、複数の面から見る（考える）方が、正確な理解に繋がる***

## ■成果（〇）と課題（▲）

〇中項目での単元計画と学習計画、学習のポイント（評価規準）を生徒と共有したことで、生徒がより見通しをもって自ら学習に取り組めた。
〇クラウドベースの授業や生徒に委ねる場面を増やしたことで、教師が一人ひとりの生徒を見取り、個別に支援する機会を増やすことができた。
〇「アジア州とは？」という概念的理解につながる学習計画を設定できた。
▲人間関係だけでなく、学習の目的に応じて協働する相手を選択することの価値の周知を図る必要がある。
▲授業と家庭学習を連携させ、知識の定着をより一層図る必要がある。

【活用したアプリや機能】Google Classroom、Google スプレッドシート、FigJam、Google Gemini